



3F complex665 6-5-24
Roppongi Minato-ku
Tokyo Japan 106-0032
t +81 3 6434 7010
f +81 3 6434 7011
tig@takaishiigallery.com
www.takaishiigallery.com

Taka Ishii

Gallery

竹村京「となりのにわ」

会期：2026 年 9 月 5 日（土） - 26 日（土）

会場：タカ・イシイギャラリー六本木

オープニング・レセプション：9 月 5 日（土） 17:00 - 19:00

タカ・イシイギャラリーは、9 月 5 日（土）から 26 日（土）まで、竹村京の個展「となりのにわ」を開催いたします。竹村京は、ものや場所に積層する時間や記憶、そこに刻まれた存在の痕跡に耳を澄ませてきました。あたかも世界の裏側へと分け入るように、目には見えない関係性を掬い上げ、過去と現在、存在と不在が交差する地点を浮かび上がらせるその作品には、執拗に消えては新たに生まれ来るものたちや、瞬間の粒子が束の間の姿として立ち現われます。

今朝となりのにわを覗いたら、こちらとの堀に面して立っている葡萄棚の下は雑草が鬱蒼としているが、その向こうの芝はきれいに刈り取られていて、となりのおじいさんが元気なことがわかる。こちらに移り住んだ当初は季節が冬で、うちに面したとなりのにわの工事現場の足場のような太い鉄棒で作られたしっかりした構造物に絡みつくように生えた太い幹とうねうねとした裸の枝を見て祖母の家にもあった藤棚だと思い込んでいたが、暖かくなってきたら葡萄の実がついて藤棚では無かったことを知る。よく考えたらついている葉っぱも葡萄だった。

ここ最近では異常に暑かったりたらいをひっくり返したような雨が降ったり、そんな雨が高崎に降るという予報が携帯電話を鳴らしたり、裏に面しているとなりのにわを眺める時間も無かったので雑草がいつも生えていないおじいさんの庭にあの高さの雑草が生えているのを見ると勝手に彼のことを忘れていた自分にドキッとし、ほぼ同時に母を想う。

おじいさんは体が悪いのにお庭の手入れを忘れない。どの季節も見栄えの良い花が咲くように仕立てている。そうすると出るのが始末されたたくさんの枝や葉っぱなのだが、それを集めて空の灯油缶に入れて火をつけている。ある日見ているとそこに赤城山から降りてきた風が吹いてあっという間に人の背くらいの高さに炎が跳ね上がった。もう少しで家のひさしまで届くという勢いにおじいさんが気づいているかと彼の姿を探したが、庭に居なかった。それで夫が消防車を呼んだが、彼らが来る頃には火は収まっていた。窓越しに消防員がおじいさんに何か話しかけているのが見えた。

親しくしている北欧家具のご夫婦に久しぶりに会ったら、となりからの貫い火で倉庫が焼けてしまって大事な家具が燃えてしまったという。その中には私が前に座らせてもらったことのある、ベッドにもなるベンチがあった。カイ・ボイスンの木で出来たゾウは焼け残ったがサルは細いので燃えて崩れてしまって跡形もなかったらしい。燃えたゾウを貫い受けたが、黒い粉の集積のようで、持ち上げると思ったよりちょっと軽い。前に本物の頭蓋骨を持ち上げた時のことを思い出す。あれは思ったよりちょっと重かったのだ。私は燃えてしまったものが軽くなったのを修復してちょっと重く戻そうと思う。

光る珊瑚のDNAと蚕の遺伝子組み換えで出来た蛍光シルクはそのまま見ると少しピンクだけれど、暗くして緑のLEDを当てて赤の亚克力板越しに見ると光って見える。夜中に水戸芸に出す能登の黒瓦をその糸を使って修復していてちゃんと糸が光っているかどうか覗いてみると、光る糸は目に飛び込んでくるが周りに置いてある赤いものがいなくなっていることに気づく。そういえば学生の頃、覚えたい箇所を赤ペンで書いて赤い下敷きで消していた。よく目を凝らせばそこに文字はあったけれど。

竹村京

本展では、金糸に加えて赤と緑の糸が用いられています。互いを強く引き立てあう補色でありながら、光やフィルターを介することで一方が鮮やかに現れ、もう一方が見えなくなる赤と緑。その移ろいは私たちが目にする存在のかりそめの姿を思わせます。一方、金は、仏教における浄土の光、中世ヨーロッパにおける時間や場所を超えた神聖な領域、そして変容の果てに到達する完成された物質の姿を想起させます。炎の中で生み出されたものたちが変容した先にある時間と光。金糸はそれらをもう一度、色とりどりのこの世界へと迎い入れるための扉となります。かりそめに現れては消える色と、時空を超えてあり続ける光。変化し続ける世界の中に宿る普遍を見つめる、作家の新たな応答です。水戸芸術館での大規模個展「うごくせかい」と同時期に開催される本展をぜひご高覧ください。

◎関連展示

展覧会名 「うごくせかい」

会期 2026年7月25日(土) - 10月12日(月・祝)

会場 水戸芸術館 現代美術ギャラリー

開館時間 10:00 - 18:00 / 休館日 月曜日

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願いいたします。尚、掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

タカ・イシイギャラリー 六本木 展覧会担当：岡本夏佳 プレス担当：野田舜士 (press@takaishiigallery.com)

Seiya Nakamura 2.24 Inc. 田邊友里恵 (yurie@seyianakamura224.com)、尾崎悠一郎 (yuichiro@seyianakamura224.com)

〒106-0032 東京都港区六本木 6-5-24 complex665 3F tel: +81 (0) 3 6434 7010 / fax: +81 (0) 3 6434 7011

e-mail: tig@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com

営業時間：12:00-19:00 定休日：日・月・祝祭日



Kei Takemura "Garden Next Door"

© Kei Takemura

Courtesy of Taka Ishii Gallery